

2023 年度 ピア・サポート活動報告

I 「ピア・サポート制度」業務ガイドライン

ピア・サポート制度は、2014 年度より本学初めての試みとして開始された。本制度は、学生による学生のための支援であり、学生同士で勉強や進路などの学生生活のことについて尋ねたり相談したり出来るものである。本制度の趣旨は、学生が、学内の業務に従事し報酬を得ることで、職業意識・職業観を育むと共に、学生に対する経済的な支援を行うこともあるが、更には、将来医療人を目指す学生が、患者との信頼関係を築く上で不可欠なコミュニケーション能力やホスピタリティを養うことが期待出来、その上で、公共的精神、積極性、広い視野や世界観の涵養など人間的成長を促すことを目的とする。10 年目である本年度は、2023 年 4 月より活動を開始した。

II 2023 年度活動内容

2023 年度のピアサポーターは、歯学科 4 年 2 名、看護学専攻 3 年 1 名が 2022 年度から引き続き担当した他、看護学専攻 3 年 1 名、口腔保健工学専攻 3 年 1 名、歯学科 2 年 1 名が 2023 年度から新たに担当となり、計 6 名で活動した。

II-1 今年度の活動方針について

今年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴う制限の緩和に伴い、2022 年度までの業務に加え、相談業務や学外交流などをはじめとする対面での活動を再開し、拡大した。

II-2 相談業務

2020 年度から 2022 年度は新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐためメールと X(旧 Twitter)の質問箱のみを使用した相談業務を行った。制限の緩和に伴い対面での相談を再開した。また、投書箱も再開し、さらに増設した。(相談受付 | Science Tokyo 旧・東京医科歯科大学 <https://www.tmd.ac.jp/peer/consult/>)

2023 年度の相談件数は対面の相談は 1 件、メールが 3 件、X(旧 Twitter)の質問箱が 3 件、投書箱が 4 件となった。

具体的な相談受付方法は、メールは scenter.stc@tmd.ac.jp に相談内容を送信していた。X(旧 Twitter)は、ピアサポーター公式の X(旧 Twitter)アカウント (ID : TMDUpeer) において、質問箱や DM にて匿名での相談受付を実施した。投書箱は学内の 2 箇所 (5 号館 B1F 生協、M&D タワー図書館前) に設置し、匿名での相談受付を実施した。

質問や相談が投稿された場合には、複数名のピアサポーターの同意を得てから回答するという旨のルールを作成している。

Ⅱ-3 ピアサポート通信の作成

2022 年度に引き続き、学生に有益な情報を届けるため、ピアサポート通信と題したメールマガジンを不定期に学内メールで配信した。今年度は全部で 6 回配信し、バックナンバーをピアサポーターの web サイトと WebClass に掲載した。

※ピアサポーターの web サイトに掲載したピアサポート通信のバックナンバー一覧

ピアサポート通信第 15 号 -ピアサポーターへの質問募集中です！

ピアサポート通信第 16 号 -歯科医師国家試験対策について（歯学科） 原田さん

ピアサポート通信第 17 号 -国家試験対策について（医学科） Vol.2 木下さん

ピアサポート通信第 18 号 -国家試験対策について（医学科） Vol.3 榎本さん

ピアサポート通信第 19 号 -図書館飲食ラウンジに投書箱を増設しました！

ピアサポート通信第 20 号 -東工大・東大による夏の医科歯科訪問

Ⅱ-4 広報活動

2023 年度は東京医科歯科大学ピアサポーター公式キャラクターが誕生し、ホームページへの掲載を行った。それに加え、投書箱や、東京医科歯科大学ピアサポーターの公式 X(Twitter)の宣伝用を周知するポスターを作成した。さらに、それらを投書箱の設置場所などの学内に掲示した(下図参照)。



図 1：東京医科歯科大学ピアサポーター
公式キャラクター



図 2：東京医科歯科大学ピアサポーター
公式X(旧 Twitter)の周知用ポスター



図 3、図 4：投書箱周知用ポスター

II-5 学外交流

東京工業大学や東京大学の方々をはじめとする、他大学の方々との交流を行った。

- 8 月 東京医科歯科大訪問(東京大学・東京工業大学)
- 11 月 ぴあのお(全国大学ピアサポーター合同研修会)
- 2 月 東京工業大学学修コンシェルジュ Jr. との座談会
- 2 月 学生応援フォーラム

※東京工業大学ピアサポーターとの合同ミーティング(1 回/1~2 月)

II-6 ピアサポーターによる新入生相談会

今年度は、ピアサポーターによる新入生相談会を行った。

【概要】

会場 東京科学大学(旧東京医科歯科大学)湯島キャンパス M&D タワー2F 共用講義室 1

日程 2023 年 4 月 11 日(火)17:00~18:00

プログラム

17:00 開会

17:05～17:20 スライド発表「大学生生活の教え」

(質問募集)

17:20～17:40 質問回答

17:40～18:00 質問が終わり次第部活動紹介などのスライド発表、参加者アンケート

詳細

17:05～17:20 スライド発表「大学生生活の教え」

教養部の学業や1年生のうちにやっておいた方が良いこと、2年生以降の各学科の勉強、部活、アルバイト、その他(ピアサポーターの業務紹介など)5点について発表を行った。

17:20～17:40 質問回答

匿名でも質問のできるSlidoを用いた質問コーナーを設け、寄せられた質問に対し回答した。

Ⅱ-7 「ぴあのわ（全国大学ピアサポーター合同研修会）」参加

今年度の幹事校は北星学園大学で、「ぴあのわ 2023 in 北海道」が開催された。本学からはピアサポーター1人と担当教職員1人が参加した。

【概要】

幹事校、会場 北星学園大学

日程 2023年11月4日(土)～5日(日)

プログラム

1日目 11月4日(土)

13:00～13:20 開会式

13:20～13:50 アイスブレイク

14:00～15:00 分科会(教職員セッション)

15:10～16:25 ワークショップ(学生セッション)

17:00～18:30 ポスターセッション

18:30～20:00 情報交換会

2日目 11月5日(日)

9:10～10:40 基調講演

10:55～12:15 リフレクション

ポスターセッションで発表したポスターを以下に示す(図5)。

図5：ぴあのわで発表したポスター

2023 年度のぴあのわのホームページ：

全国大学ピアサポーター合同研修会ぴあのわ - 前回のぴあのわ

<https://sites.google.com/view/pianowa/%E5%89%8D%E5%9B%9E%E3%81%AE%E3%81%B4%E3%81%82%E3%81%AE%E3%82%8F> (2024 年 11 月 1 日閲覧)

Ⅲ 2023 年度の活動を振り返って

Ⅲ-1 ピア・サポート活動の終了にあたり

3 月のピア・サポート活動の終了にあたり、ミーティングとアンケートを実施した。

今年度のピア・サポート活動の終了にあたり、3 月にミーティングとアンケートを実施した。アンケートを抜粋したものを以下に記す。

○今期の活動について（頑張ったこと、印象に残っていること）

- ・他大学との交流に関すること

「他団体との交流を深められた年であったと感じています。」「様々な交流活動を通して、医科歯科のことやピアサポーターの活動のことを色々な方に発信し、他団体さんから学びを得る機会が沢山ありました。」「他大学の活動をお聞きすることで自分たちの活動の見直し、改善にも繋がりました。」

- ・新型コロナウイルス感染症流行後の活動に関すること

「投書箱や SNS のリニューアルなど、対面授業の再会に伴い、相談方法の幅を広げることができました。」「投書箱や相談会等、コロナ渦では制限がかかっていたような活動を再開する動きができたと思います。」

- ・広報に関すること

「X(旧 Twitter)や HP、ポスターなどを作成、修正していく中で読み手にとってわかりやく情報をのせる、かつそそられるデザインにするということのを難しかったですが頑張りました。」

○活動前と後における変化（変わったこと・学んだこと・気づいたこと）

「学生がどのようなことに悩みを抱えているのかを知り、それをどのように支援に繋げていくのかを考えることが重要であり、1 番難しい課題であると感じました。」「従来のやり方だけでなく、自身の大学の特徴を活かした支援や活動を自由に考える柔軟性も大切だと学びました。」「自分の学生生活の中で、これがあつたらいいな、便利だなというようなこ

とを意識的に考えるようになりました」「他大学との交流を通して様々なピアサポート活動を学んだと同時に、それぞれの大学に合う在り方の重要性も実感し、視野が広がりました。」

「前は自分とその周りの小さなコミュニティだけで生活が構成されていましたが、ピアサポート活動を通して色々な方を身近な存在に感じるようになり、色々な人がいることを実感するようになりました。」「人見知りな性格だったのですが、他大学との交流を楽しみたいと思うようになりました。」

○ピア・サポーター活動の感想

・「誰かのために行動することがとてもやりがいがあった。」「傾聴についての講座など、人との関わりの中でどのように接していくのかということについても学ぶことができた。」「対象者である学生のニーズを把握することの大切さを実感しました。」「対象者に向き合う際には、同じ仲間として学生に寄り添う姿勢が重要であることを学びました。一方、それらと同時に、学生に活動を周知させ、何かあったときに頼ってもらえるようにすることの難しさも感じました。」「何かを伝えるときにそれを受け取る相手のことを意識することの重要性を常に学んでいます。どう伝えれば受け取り手に一番伝わりやすく、優しく前向きな気持ちで受け取ることができるか、ということを中心に考えながら情報発信や相談業務を行っており、日々試行錯誤をしている状況です。」「他校の団体の方とお話をしていくうちにそれぞれの大学に個性があって、医科歯科は医科歯科にしかできない活動を頑張っていけばいいのだと気づきました。」

○ピア・サポート制度が今後も充実していくための検討課題について

「もっと広報活動などを通して、ピアサポーターの利用率を増やしたい。」「Twitterをもっと動かし、ピアサポーターが活動しているよ！いるよ！と伝えられたらいいなと思います。」「東工大との統合に向けて、どのように連携を図っていくのか、具体的に話し合えたらと思います。必要な支援を検討したいです。」「ピアサポーターが卒業した後も希望すれば残れるような制度があるといいと思います！」

○次年度やってみたいと思う活動について

「新入生との個別相談会、海外派遣研修に関する情報提供や相談会、国試対策のピアサポ通信」「オープンキャンパスや学園祭への参加、イベント企画の実施」「東工大との統合に向けて学生団体さん方との連携をさらに深めていきたいです。」

○医療人として必要なコミュニケーション能力やホスピタリティを身につけ、積極性、視野や世界観を広げるというピア・サポート制度の目的について

「相談対応や練習を通して、相手に寄り添い、一緒に解決していくということを達成できた。」「相談対応では、傾聴のスキルや悩みに寄り添うコミュニケーションについて研修や

実践を通して学ぶことができました。」「ぴあのわやフォーラムでの他団体との交流が広がり、医療分野以外の学生との協働や主体的な活動をするヒントを得ることができたと思います。」「対象者に向けてどのようなアプローチが効果的か、ピアサポーターの仲間と相談しながら考えていくことができた。」

Ⅲ-2 まとめ

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が縮小した。これに伴い、対面での相談や投書箱を再開することが出来た。新入生相談会、東京工業大学や東京大学の方々との対面での交流等、より活発な活動を行うことが出来た。これからも学生に寄り添い学生生活を積極的にサポートするとともに、学外交流も大切にし、ピアサポーター活動に生かしていきたい。

学生へのピアサポート活動の周知が引き続き課題として挙げられる。情報発信、イベントの参加などを継続し、少しずつ認知度の向上に努めたい。

編集 2024 年度ピアサポーター